

これまでの議論の概要

国土交通省 北海道開発局

（十勝南モデル地域圏域検討会ワーキングチーム（交通関係））

令和元年12月20日



ワーキングチームの取組(地域交通の利便性向上)

- ◆ 広域分散型の地域構造が顕著な十勝南モデル地域は、自動車への依存度が高い傾向。
- ◆ 超高齢化社会の到来、増加傾向にある観光客への対応など、地域公共交通の維持及び活性化が喫緊の課題のため、地域連携による利便性の高い交通ネットワークの形成を目指して取り組む。

地域の取組

○道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験



出典:北海道開発局

○観光客向け乗り放題パス「ビジットカチパス」



出典:十勝バスHP

○モビリティ・マネジメントの取組



戸別訪問の取組

出典:帯広市HP

今後の取組の方向性

乗り継ぎの改善

幹線バスとコミュニティバス等の接続向上
乗り継ぎの見える化
バス、タクシー、レンタカー、自転車等
様々な交通モード間の連携
乗り継ぎ待ちしやすい環境づくり
帯広空港からのアクセス改善

新技術

自動運転技術の活用

広域連携

複数市町村が連携した
交通網の検討

コミュニケーション対策

モビリティ・マネジメントの推進
地域交通に係るコンシェルジュのような人材の育成

地域連携による利便性の高い
交通ネットワークの形成

今後のワーキングチームでは、まず、既存路線の利用実態と潜在的なニーズの把握など、交通データの見える化とそれらの共有を図る。

十勝南モデル地域圏域検討会 ワーキングチーム(第1回:交通関係)開催概要

【主な意見】

- ・現行制度における路線バスの継続的な運行については、人口が減っていく中、利用者が確保されず収支が改善されないと、自治体の財政負担も大きくなる懸念がある。
- ・重要なのは、モビリティ・マネジメントという地道な取組。
- ・目的地までの直行便があれば便利だが、新規路線は難しいので、幹線のバス路線(帯広～広尾など)と、各自治体のコミュニティバス等の路線をうまく接続し、乗り継ぎを良くするが大事。
- ・バスだけでなく、JR、タクシー、レンタカー、自転車などいろいろな交通モード間の連携、乗り継ぎを検討することが必要。
- ・スムーズに乗り継げるダイヤの設定ができれば良いが、難しい場合も多いので、バスターミナルのように待ちやすい環境づくりも大事。
- ・路線バスなどの乗り継ぎが表に見えるような形、乗り継ぎの見える化が必要。
- ・観光案内所等に目的地までの乗り継ぎを説明できるコンシェルジュのような人材が必要。不安感もバスに乗らない原因だと思う。
- ・帯広空港から南十勝に行く際に、一度、帯広市に戻らないとバスで乗り継げないなど観光面も含めて課題がある。
- ・空港からの交通など単独市町村で解決が難しいのであれば、複数市町村が連携した地域公共交通網形成計画を作成してはどうか。
- ・乗り継ぐのか、直行便で行くのかなどの選択肢が地域住民にあれば良いが、選択肢が無い地域で早く何か動くことができれば。

会議の様子



○日時:平成30年8月8日(水) 13:30～16:00

○場所:帯広開発建設部 1階 第3.4会議室

○出席者(敬称略)(計27名)

- ・十勝バス株式会社 事業本部長
- ・拓殖バス株式会社 業務部長
- ・トヨタ自動車株式会社 国内営業部
地域営業室 担当課長

長沢 敏彦

小森 明仁

小西 顕一

- ・帯広市
- ・中札内村
- ・更別村
- ・大樹町
- ・広尾町
- ・幕別町
- ・北海道 総合政策部 交通政策局
- ・北海道 十勝総合振興局
- ・国土交通省 北海道運輸局
- ・国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局
- ・国土交通省 北海道開発局
- ・国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

十勝南モデル地域圏域検討会 ワーキングチーム(第2回:交通関係)開催概要

【主な意見】

- ・単純に乗降客が多い、少ないだけでなく、お客様方が何を望んでいるのかというニーズ把握が最重要課題。
- ・高規格道路を走る都市間交通の実験が実施されているが、既存の広尾線との兼ね合いで、適正便数の分析が必要。
- ・今バスに乗っていない方(自動車ユーザーや高齢者)や、どんな理由でバスに乗っていないのかなどの情報を把握したい。
- ・データを事業者が個別に調査することは難しいため、ICTの活用による人の流れの把握ができないか。
- ・コミュニティバス利用客の潜在的ニーズや、広尾線への乗り継ぎの接続、タクシー事業者が撤退した地域での交通ニーズ(タクシー事業のみで成り立たないので、地域交通をトータルで担うなど)を把握することが必要。
- ・H31年度に広尾線沿線自治体で構成する協議会で乗降調査を実施し、その結果をもとに停留所の再編などを検討する予定。
- ・今後、国、道、自治体などで財政的に厳しい状況にあるなかで、どう路線を維持するかの検討が必要。
- ・地域交通を抜本的に変えていくのは難しいため、トライ・アンド・エラーで、やれるところからやっていくべき。
- ・シームレス交通戦略の取組では、わかりやすい情報提供、利便性の高い目的地までの移動の2点を中心に進めているところ。
- ・帯広市内2路線でイオンとの連携により電子マネー(Waon)による運賃決済を実験中。利用客の動きも抽出でき、効果を検証したい。
- ・乗り換え案内アプリで全ての交通モードが検索できるようバス、JR、航空会社との合意はとれた状況。
- ・外国人や観光客向けのフリーパスの取組「ビジットカチパス」については、運賃を支払う煩わしさ、乗り継ぎのストレスを無くすことができおり、今後は多様な交通モード、タクシー会社など、どのような形で発展的にやっていけるかを考えることがMaaSの取組に繋がっていく。
- ・中央バスを中心に全道のバス会社が参加し、外国人向けに都市間高速バスの乗り放題パスを作成し、販売する予定。
- ・空港から南十勝への接続について、幸福、大正等で接続できるが、待ち時間や乗り継ぎの難しさなどから、一度、帯広駅まで行くよう説明している。
- ・帯広市のエリアを中心に自宅から帯広空港への定額料金タクシーを実施しているが、利用件数は伸びている。
- ・国土交通省において、MaaSの取組として、現状バラバラになっているバス会社の時刻表やダイヤのデータをオープンデータ化・共通化することにより、バスの乗継ぎや目的地を簡単に検索できるようなシステムにしていく取組を進めている。

【話題提供:北海道開発局】

- ・道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験
- ・新道路技術会議による実験

【今後の進め方など】

- ・まずは、既存路線の利用実態と潜在的なニーズの把握など、WTで交通データの見える化とそれらの共有を図る。
- ・実行可能な取組から着実に進めていく。



○日時:平成31年1月31日(木) 13:30~16:00

○場所:帯広第2合同庁舎 3階 第1.2号会議室

○出席者(敬称略)(計28名)

- ・十勝バス株式会社 事業本部長 長沢 敏彦
- ・拓殖バス株式会社 業務部長 小森 明仁
- ・十勝地区ハイヤー協会 常務理事 塚本 俊二
- ・帯広市・中札内村・更別村・大樹町・広尾町・幕別町(欠席)
- ・北海道 総合政策部 交通政策局・十勝総合振興局
- ・国土交通省 北海道運輸局・帯広運輸支局
- ・国土交通省 北海道開発局・帯広開発建設部